

シリーズ第14話

## 子どもの予防接種について

予防接種は公費接種（自治体が費用負担）と自費接種（自己負担）に分けられます。昭和初期、日本国内で毎年数千人（結核は数万人以上）が死亡したとされる結核・破傷風・百日咳・ジフテリア・麻疹など、特に恐ろしい病気を対象に公費接種が行われます。これらの病気は決して過去のものではなく、何らかの事情で予防接種が中断された場合、再び猛威を振るう可能性があります。あると考えられています。実際、旧ソ連体制崩壊時にワクチン不足のため、ロシア国内でジフテリアにより約四千人の死者が出たそうです。

【副作用について】

これについては色々な考え方があり、「予防接種は危険」と

いう趣旨の発言をされる医療関係者も少数います。身体にとってワクチン（予防接種に使った薬）は一種の異物ですので、確かに100パーセント安全と言い切ることはできません。でも、交通事故を例にとってみても私たちの日常生活そのものが100パーセント安全とは言えませんよね。「予防接種で防ぐことのできる病気はすべてワクチンで予防すべき」という考え方は、現代医学の常識であり、少なくとも公費接種だけは確実に受けていただきたいものです。自費接種（水ぼうそう・おたふくかぜ・B型肝炎・インフルエンザなど）に関しては、出費を伴うこと、インフルエンザは他のワクチンに比べ効果がやや低いといったこともあり、「何が何でも接種

すべき」とは一概に言えませんが、とはいえ、特に水ぼうそう・おたふくかぜは小学校高学年以上になつてかかると重症化するため、集団生活に入る前の接種をお勧めします。

【麻疹ワクチンについて】  
最近マスメディアへ頻繁に登場する麻疹（はしか）は、今までのワクチン1回接種では流行阻止効果が不十分」との理由から、子どもへの2回接種が徐々に拡大されました。平成2年4月2日以降に生まれた方は、今後5年間で2回目の麻疹風しん混合ワクチンを無料で接種できます。順次、該当するお子さん宛に市から通知されますので、問い合わせは無用です。ちなみに平成2年4月1日以前に生ま

れた方は、料金自己負担となります。もっとも、実際に麻疹にかかった方はワクチンを打つ必要はありません。

市では保健センターにおいて公費接種のスケジューリングが組まれます。これに基づき各家庭に通知され、基本的に集団で接種が行われます。

市民病院小児科ではアレルギーなどのため個別接種が望ましいお子さんや、自費接種全般についても随時予約を受け付けています。また、お子さんの予防接種に関するどんな質問にもお答えします。（申し訳ありませんが海外のワクチン事情には詳しくありません）まずはお電話でご相談ください。



新城市民病院  
小児科  
部長医師 影山里実

